

支部だより
三原支部

三原市芸術文化センター(ポポロ) 完成見学会にて



昨年の12月13日(木)、三原市芸術文化センター(愛称ポポロ)の完成見学会が開催されました。広島県建築士会、他県では岡山県建築士会の皆様、広島国際大学建築学科の学生さん、呉工業高等専門学校建築学科の生徒さんと、総勢100人余りの方々が参加されました。

まず、ポポロ完成にご尽力されました三原市都市部次長兼建築課長・前川様の完成のご挨拶。そしてポポロ館長・渡邊様の施設概要説明、三原市役所・山本様の建設工事概要説明を静聴した後、2班に分かれて館内を案内していただきました。

最初に1階の舞台について、客席から説明を受けました。緞帳は三原を深紅に染め上げる朝焼けに、航跡、空路、街、山々の光跡が無限に広がる様子をイメージして製作されたそうです。1・2階合わせて1,200人の席が満席になることは年間を通じてまれであり、それよりも常に三原市民が積極的に利用、参加できる意図の下に設計されたと聞き、なるほど舞台の上からも客席と一体になれる状況を感じ取ることができました。



荷さばき室付近には、開館コンサートで中村絃子さんが弾かれたグランドピアノが置かれており、このホールで聴いてみたかったと思うと同時に、次回は聴くことができると思うのでありました。学生さんがさまざまな場

三原支部 事業委員会 山根 秀幸

所をデジカメで撮影し、筆記している姿が目に入り、改めて向学心のある真剣な眼差しに感動しました。

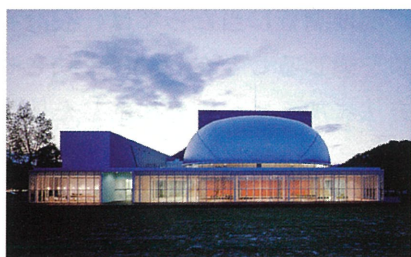
楽屋から会議室、事務室を経て中庭のあるホワイエに入ると、展示物やカフェもあります。隣接している宮浦公園に遊びに来た人々も気軽に利用できるよう工夫されており、常に市民を意識したコンセプトに感心させられました。

内部階段を上がり、2階ホールより練習室、リハーサル室を通りテラスに出ると、トラスウォール鉄筋を用いたメッシュ型枠工法の上にステンレス葺きのホール屋根が目の前に現れました。設計者の横総合計画事務所の話では、正月を祝う鏡餅のように少し球体を押しつぶした形にしたとのことでした。



テラスの床タイルは瀬戸内海をイメージしたブルー。三原のシンボルである小早川隆景築城、三原城の浮城のように夕陽に浮いて見えるポポロのドーム。再び、「なるほど!」と、ドームに設計者の意思、インパクトのある曲線幻想を感じました。

後日、施工担当者の方より、ドーム屋根のSRC梁は2次元では表現しきれず、3Dの構造体CGを作成し、協力業者とイメージを明確にしたと聞きました。それでも対応が困難な個所は、現地で角度を合わせて加工し、施工を行ったということでした。私も何十年と残る建造物の仕事に携わっており、生産する立場の者として、建物が完成すると施工中の苦勞が吹っ飛んでしまうくらい、感慨深いものがあります。



最後に、このプロジェクトに参加され、完成までご苦勞されたスタッフの皆様にご感謝したいと思います。お疲れさまでした。ありがとうございました。

MONTHLY 建築士

IROSHIMA



表紙写真について



「神石高原の庫裡」

- 設 計 / 濱田昌範建築設計事務所
(濱田昌範・河上史晃)
- 施 工 / 西松建設(有) 赤澤 賢
- 所 在 地 / 広島県神石郡神石高原町
- 構 造 / 在来木造軸組工法
- 規 模 / 地上 2 階
- 建築面積 / 93.90㎡
- 延床面積 / 159.00㎡
- 写 真 / 野村和慎

歴史あるお寺の境内に計画した、住職家族のための住居である。敷地が経てきた歴史に敬意を払い、あらがうことなく素直なたたずまいとなるよう気を配った。西隣の蔵と軒の高さをそろえ、町の指定重要文化財である正門とのつながりを重視した。

また内部においては、冬の厳しい寒さへの対処として、バッファゾーンとしての縁側や廊下を外周部に配置し、断熱性能の高いアルミサッシや薪ストーブを採用した。また、ご家族の文化的な日常生活に合わせ、音響に配慮した音楽室や静かな図書室を設けた。

施工は地元の檀家さんたちと協力し合い、なるべく地元の木材を使用。納まりや施工方法等、お互いの意見を尊重し合い創り上げた。

竣工し程なく開かれた、この計画に携わった方々の労をねぎらう会に設計者として招かれ、多くの人と建築を創り上げる喜びを改めてかみしめた。

「建築士が関わるまちづくりトーク2008」開催

社会活動委員長 杉田 輝征

広島県建築士会は平成12年に「広島県地域貢献活動センター」を設立し、士会会員が参画している地域貢献活動団体に対し助成をして参りました。この8年間に対象となった活動団体は30余りになっております。

しかしながら、これまでその活動を報告する機会がなく、せっかくの素晴らしい活動も限られた一部にしか知られていません。会員にはもちろんのこと、一般市民の方々にも、我々が建築士として地域にどう関わってまちづくりに参画しているのかを積極的にアピールしていく必要があると考えます。

そこでこの度、社会活動委員会の主幹でその活動報告会を開催することとなりました。平成18年度に助成した団体の中から5つのグループに発表して頂きます。また併せて、青年部と女性部によるまちづくり活動報告も行います。これは20年度の建築士会全国大会での発表を目指しての県代表の選考も兼ねております。

詳しいご案内と申込書を同封しておりますので、ぜひお誘い合わせの上ご参加下さい。

日 時：平成20年2月17日(日)

第一部 12:30～14:40

「青年部・女性部」のまちづくり活動

第二部 14:50～17:00

「平成18年度助成団体」のまちづくり活動

会 場：広島県情報プラザ 地下「多目的ホール」

参加費：無 料

なお、第9回目となる「2008年度広島県地域貢献活動センター助成団体」の募集も3月3日より開始致します。今回より、従来の資格(地域が中心となり士会会員が参画する)に加えて、士会そのものが中心となって地域住民と共に活動する事業も対象となります。限られた予算ではありますが、少しでも多くの活動に助成を行いたいと考えておりますので、奮ってご応募下さい。

平成19年度「CPDデータ登録」の結果について

今回のデータ登録者数は371名でした。

★平成17年度の専攻建築士登録者218名の内、今回のCPDデータ登録者は149名でした。

平成22年度の更新時にはデータ登録の累計単位が必要です。ご留意下さい。

★平成18年度の専攻建築士登録者174名の内、今回のCPDデータ登録者は105名でした。

平成23年度の更新時にはデータ登録の累計単位が必要です。ご留意下さい。

(必要単位については、専攻領域数によって違います。詳しくは、HPの「専攻建築士・登録の更新」を参照して下さい。)

★CPDデータ登録は年1回(11月)、1年分(前年11月～当年10月)しかできません。従って、平成19年10月31日までのものは失効致しました。今年の11月に登録可能なものは、昨年11月1日から今年の10月31日のものです。何年間をまとめて申請することはできませんのでご注意下さい。

★平成19年11月に「専攻建築士登録申請」をされた方は、平成20年11月のデータ登録から平成24年度までのデータ登録の累計単位が必要です。申請を忘れないようにしましょう。

(必要単位については、専攻領域数によって違います。詳しくは、HPの「専攻建築士・登録の更新」を参照して下さい。)

★下記に今回の申請書の書き方で間違いが多かったものを記します。次回の参考にして下さい。

■CPD参加登録年

「CPD参加登録年」とは、参加した年、つまり手帳を入手した年です。データ登録を最初にした年や専攻建築士に登録した年ではありません。この「CPD参加登録年」は一生変わりません。通算年は毎年増えます。平成19年度の正しい書き方は下記の通りです。

H14/11/1～ H15/10/31 参加	平成15年参加 通算5年目
H15/11/1～ H16/10/31 参加	平成16年参加 通算4年目
H16/11/1～ H17/10/31 参加	平成17年参加 通算3年目
H17/11/1～ H18/10/31 参加	平成18年参加 通算2年目
H18/11/1～ H19/10/31 参加	平成19年参加 通算1年目

■専攻建築士登録の年度

専攻建築士登録の年度は申請した年度です。例えば、昨年度申請された方は、登録証が届いた平成19年ではなく、「平成18年度登録」となります。また、同年に登録申請される方は、まだ専攻建築士ではないので記入しないで下さい。

■バーコードシールが手帳に貼ってあるもの

バーコードシールを貼ってあるものは、申請書に書いてはいけません。書式1(建築士会継続能力開発(CPD)プログラム認定申請書)は、バーコードシールが配布されなかった研修プログラム(他団体主催など)を自己申請するためのものです。自己申請をするものがない場合は、何も記入していない申請書を出す必要もありません。

■書式1で申請した研修プログラムの参加証明

一番望ましいのは、主催者が発行した受講証明書(修了証など)です。ない場合は、受講票、領収証、参加者リスト、受講申込書などが考えられます。また、正味時間と研修の概略の分かるカリキュラムやスケジュ

あなたの作品で表紙を飾ってみませんか?

随時、表紙用の写真を募集しています。写真(プリント、ポジ、データ)2～3点を設計概要、設計趣旨(400字程度)と一緒に送ってください。会員の皆様からのご応募をお待ちしています。



社団法人 広島県建築士会

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F
TEL (082) 244-6830(代) FAX (082) 244-3840
mail : info@k-hiroshima.or.jp
URL : http://www.k-hiroshima.or.jp/

ール表などを添付しなければなりません。

他団体のCPD資料を添付されていても、それを士会でもすべて認定できるとは限りませんので、他の資料も添付して下さい。

■委員会活動（書式2）で申請できるもの

委員会活動として申請できる活動は、広島県建築士会主催のものか、行政関係依頼の委員会や会議です。他団体主催のものは、士会の代表として出席を要請された場合のみです。用紙の注意書きにも記載してあります。また、建築士試験監理員もこの書式です。各委員会のメンバー中心に行う活動（広く広報しないもの）も委員会活動になります。書式1ではありません。

■実務実績の単位計算

少し煩雑ですが、ガイドや申請書の下段の注意をよく読んで計算して下さい。計算式も記入して下さい。

■登録可能な期間以外のもの

CPDデータ登録は年1度、1年間分を登録します。今回は平成18年11月1日から平成19年10月31日の間に実施された研修、実務実績が有効でした。それ以前のものは無効、それ以降のものは来年度の登録となります。また、この期間に建築士会に入会された方は入会月以降のものが有効です。

■その他の注意

- ・実務実績シートには、できるだけ個々の業務名で申請して下さい。単位換算表の中に『マネジメント業務』とありますが、これは直接業務に携わることがない設計事務所の経営者や大手企業の管理職等の方が使用して下さい。少しでも実務にかかわっている場合は、業務を記載して下さい。
- ・自己申請できる研修はあくまでも一般の方とは違った建築士としての立場、視点からのものです。見学会等は、観光旅行ではありませんので、ただ見学しただけでは認定は難しいです。講師や説明者が同行など、企画を考慮して下さい。また、タイムスケジュールを必ず添付して下さい。町内会や地域のボランティア活動も建築士の立場としてかかわっているかどうかを考慮して下さい。
- ・会報誌の公開講座のバーコードシールは紛失しないように管理し、ご自分の会報誌のシールを使用して下さい。コピーではコードが読み取れない場合があります。
- ・申請書は極力、手書きではなく入力したものをプリントして下さい。
- ・登録料を会社名で振り込まれる場合は、できれば会社名に続けて個人名も付けて下さい。
- ・ガイドは必ず読んで下さい。ガイドと申請書の下段の注意を読まなければ、正しい申請書は書けません。

平成19年度「専攻建築士登録申請」状況について

(平成20年1月現在)

今回の登録申請者は202名です。今後、「建築士制度運営委員会」「専攻建築士審査評議会」の審査を経て、日本建築士会連合会の「専攻建築士認定評議会」に掛けられます。最終結果が出るのは3月下旬になりますので、新しい「専攻建築士」が誕生次第、ホームページと会報誌でお知らせ致します。

申請者数：202名
(1領域 182名・2領域 19名・3領域 1名)
専攻領域数：224領域
(まちづくり 9名・設計 116名・構造 21名・環境設備 4名・生産 61名・棟梁 1名・法令 11名・教育研究 1名)

「CPD」「専攻建築士」関連の情報は、できるだけホームページや会報誌に掲載しますのでお見逃しのないようお願い致します。

また、平成20年度のガイド及び申請書類は、8月下旬頃にホームページからダウンロードできる予定です。平成20年度版として改訂しますので、今年の書式や連合会のものを使用しないようご注意ください。

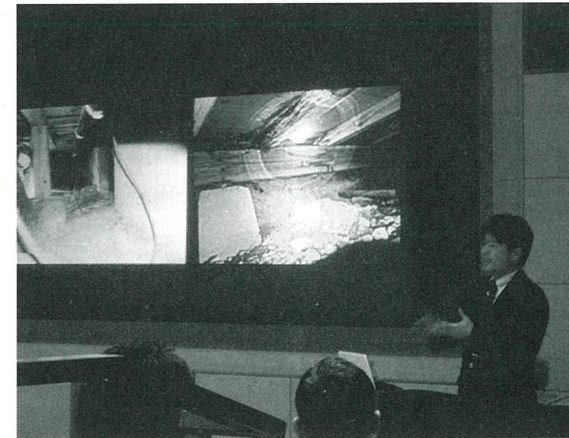
<http://www.k-hiroshima.or.jp/>

ひろしま住まいづくり
支援ネットワーク事業

住宅のリデザイン

事業委員 原田 慎治

昨年12月12日、「ひろしま住まいづくり支援ネットワーク」と共催で、現代計画研究所の今井信博代表取締役を講師に迎え、「住宅のリデザイン～設計から始める住宅リフォーム～」を開催しました。「ひろしま住まいづくり支援ネットワーク」は、県内の住まいづくりにかかわる団体が情報を共有するとともに、連絡を密にし、県民が安心して適切な住まいづくりが行えるよう支援の充実に寄与することを目的に、平成18年度に設立され、広島県建築士会も構成機関となっています。今回の研修会は、人口・世帯数減少社会の到来を目前にし、住宅市場におけるリフォームの果たす役割に大きな期待が寄せられていることから、住宅リフォームのための設計（リデザイン）という視点で、今井先生に講演をお願いしました。講師がこれまでに経験された8件の住宅リフォームの設計事例を題材に、設計のポイントについて説明を受け、110名の参加者は最後まで熱心に受講しました。



今井先生は「木の香る住宅工房」のメンバーということもあり、木材を多用した事例が多く紹介されましたが、機械設備に頼らない通風や採光など、自然の環境を取り入れる重要性について説明がありました。特に外部と内部をつなぐ空間として、サンルームや縁側を活用した事例が印象に残りました。



伝統木造工法のリフォームに当たっては、断面の大きい材料が使用してあることからわずかな補修で使用可能となりますが、構造材の傾きにかかわる調査も必要であり、曳き家職人によるジャッキアップ等の活用事例についても紹介がありました。

現地調査に当たっては、設計者自らが床下にもぐるなどして湿気や風通しを感じることを設計に反映させるという話や、工事による物理的な解決方法に加えて、季節に応じた居住スタイルや家具の配置などもアドバイスすることが必要だという話には、会場から大きなうなづきが聞こえました。またRC造のマンションで、内装をすべて撤去し、ほぞや込み栓により木造の軸組みを形成したりリフォーム事例の紹介もあり、和洋折衷的なデザインとなる場合もあるということでした。

現地調査に当たっては、設計者自らが床下にもぐるなどして湿気や風通しを感じることを設計に反映させるという話や、工事による物理的な解決方法に加えて、季節に応じた居住スタイルや家具の配置などもアドバイスすることが必要だという話には、会場から大きなうなづきが聞こえました。またRC造のマンションで、内装をすべて撤去し、ほぞや込み栓により木造の軸組みを形成したりリフォーム事例の紹介もあり、和洋折衷的なデザインとなる場合もあるということでした。

住宅リフォームと一口に言っても、壁紙の貼り替えや設備機器の交換から、バリアフリー化、耐震改修、間取りの変更を伴うものまでさまざまですが、場当たりの改修ではなく、施主の思いにきちんと応えるためのリデザインが重要であることを痛感しました。

住宅リフォームと一口に言っても、壁紙の貼り替えや設備機器の交換から、バリアフリー化、耐震改修、間取りの変更を伴うものまでさまざまですが、場当たりの改修ではなく、施主の思いにきちんと応えるためのリデザインが重要であることを痛感しました。

2008 Information Calendar 2月・3月の行事予定

2 February

- 1 金・建物ライフサイクルの視覚表現とそのコスト・環境負荷の比較講習会(呉地区支部)
- 5 火・指定講習会(福山・福山土木建築会館)
 - ・柿洪を使って・ランプシェード展示会(～11日まで・呉地区支部女性委員会)
- 12 火・青年部定例会(呉地区支部)
- 14 木・青年部定例会(尾道支部)
- 16 土・住宅瑕疵担保履行の義務化に伴う施工技術講習会(県北支部)
- 17 日・建築士が関わるまちづくりトーク2008(広島県情報プラザ)
- 23 土・支部対抗ボウリング大会
 - ・一級建築士製図対策講座(福山支部青年部会)
- 24 日・一級建築士製図対策講座(福山支部青年部会)

3 March

- 1 土・建築技術者のための木造住宅耐震セミナー(呉地区支部)
- 8 土・香川県直島町見学会(広島支部)
- 9 日・建築なんでも探検隊(福山支部女性部会)
- 11 火・青年部定例会(呉地区支部)
- 13 木・青年部定例会(尾道支部)
- 19 水・女性委員会例会(呉地区支部)
- 20 木・支部ゴルフ大会(福山支部)
- 28 金・改正建築基準法に関する説明懇談会(尾道支部)